

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

あけましておめでとうございます。

今回は、『日経ビジネス総力特集』（以下（日））、と『週刊ダイヤモンド新年合併特大号』（（ダ））、から面白いものをピックアップしました。一見自社の業務には無関係と思われるかもしれませんが、自社に応用できることが何かあるはずだと考えて読むと使えることが出てくるのではないかと思います。

2019年

★景気：景気は減速するという予測と、引き続き堅調という予測の両方があります。お正月ですので、良い方をご紹介します。

・中空麻奈氏の予測（BNPバリバ証券、（日））：19年以降も景気は底堅い。懸念材料はあるものの、多くの国でファンダメンタルズが改善している。財政破綻懸念のイタリアを見ても、財政赤字は増えているものの銀行などの不良債権比率は改善している。大きな跳梁としてはESG（環境・社会・ガバナンス）への投資が加速する。

・アンケート（ダ）：省力化中心の投資拡大が続く

★米中対立（日）

デイビッド・ゴードン氏（ユーラシア・グループ）：中国経済は悪化している。一方、トランプ政権もカンザス州で民主党系知事が誕生し、歩み寄りの流れになってきた。本格的な貿易戦争ではなく、低強度の紛争に収まる可能性が高い

★生き残りへの3つの突破口（日）

1. ネットで売っていないものを自分で作って売る。他にはない商品だ。それを作るための3つのポイント

・異業種と提携し、生産技術を向上：ディスカウント店が飲食店と提携して弁当を開発
・顧客と接する社員の声を活用：主婦を中心

とするパート社員の声を取り入れる機会を定期的につくる

・SPA体制へ転換する：SPAとは製造小売り。食品スーパーが水産加工会社を子会社化

2. モノを売るより、体験を売る：蔦屋書店
・売るのはライフスタイル：食の分野であれば、食器や調理器具なども展示販売

・イベントを毎日のように開催：試食販売のイベントなど

・食をエンターテインメントに

3. 人間ならではの接客を極める

・長期雇用で専門性を高める

・顧客との長電話もウエルカム

・「店と人」より「人と人」の関係

★コンビニ（日）：大手三社の客数が軒並み低迷する傾向にあるなか、各社は個性を打ち出していこうとしている。

・セブンイレブン：都内初の移動販売

・ファミマ：異業種との一体型店舗。コインランドリー、フィットネスクラブと一体型店舗

・ローソン：ウオークスルー型の無人決済などデジタル技術対応

以上、いろいろな記事をご紹介しました。例年新年の予測は書籍から紹介しているのですが、今回は適当なものを見つけることができませんでした。そこで雑誌からの紹介となりました。予測ですから、いろいろです。景気にしても、良くなるというもの、良くならないというもの、いろいろな予測があります。

しかし、確実なこともあります。1つは、長期にわたる人口減少です。ほおっておけば、売上は下がるでしょう。もうひとつは、IT発展の加速化です。ほおっておけば、ついていけなくなります。この二つに対処しなければいけません。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

日本語テスト

従業員に、「◎◎してください」と言ってもしてくれない、あるいはまったく見当はずれのことをされてしまったという経験はないでしょうか？ネットで気になる記事を見つけたので紹介します。（検索⇒日本語が読めない日本人は案外いる）

記事は、いきなり例題で始まります。

問①次の2つの文が表す内容は、「同じ」でしょうか、「異なる」でしょうか。
・幕府は、1639年、ポルトガル人を追放し、大名には沿岸の警備を命じた
・1639年、ポルトガル人は追放され、幕府は大名から沿岸の警備を命じられた

全国の中学生857人の正答率は、なんと57%、驚異的な低さです。『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』の著者、新井紀子氏が開発した「リーディングスキルテスト（RST）」が今、教育機関や企業から熱い視線を集めているそうです。

この例題をネットで見ることができます。「教育のための科学研究所」で検索してみてください。え、これがわからないの？という問題が続いています。

ネットにはこんな例題も載っています。

問②近畿地方を中心に、領主や鎌倉幕府に従わず、年貢を奪う武士があらわれた。
年貢をうばうのは（ ）である。

選択肢： 鎌倉幕府、武士、近畿地方、領主

（解答 ①異なる、②武士）

社長の指示が理解できない社員が入ってきたら困ります。入社試験に使ってみてはいかがでしょうか？

土地建物△795万円で落札

この表題の意味がわかるでしょうか？795万円くれるのであれば、土地と建物ももらってやろうということです。こんな入札が成立したのです。びっくりしませんか？（検索⇒マイナス795万円で落札）

物件は、埼玉県深谷市の廃校となった小学校の体育館と敷地1500平方メートル。資産売却で自治体側がお金を支払う「マイナス価格」で落札されたのは全国初。これまで2回入札にかけたが応札がなかったそうです。体育館の解体費が土地の評価額をうわまったため、市は予定価格をマイナス1340万円としたということです。

お金を払ってでも土地を処分する。それは、そっちの方が得だからでしょう。今回のこのニュースが、これからの動きのきっかけになるような気がします。すでに何年も前から、土地の処分に困って、寄付するということがあります。それに加えて、お金を払ってでももらってもらおうということが広がるかもしれません。「土地神話」ということばがすでに神話、伝説になっているように思います。

土地をたくさん持っていらっしゃる方、中でも固定資産税を払うばかりで将来も役に立ちそうにない土地を持っている方は、ただでもらってもらおう、あるいはお金を払って受け取ってもらおうようになるかもしれません。

岡山でもすでに、ただで土地をもらってもらおう、あるいはお金を払うから不動産をもらってくれということが起こっています。

この記事は、世の中の変化が激しく、早くなっているということの例として取り上げました。今後もこの傾向は続くでしょう。対処するためには、頭を柔軟にしていける努力が必要だと思います。